

専門部会議事内容結果（要旨）

専門部会名	第4回都市基盤整備部会
開催日時	平成 28年 3月 28日 18時 30分 ～ 20時 20分
開催会場	名寄市役所 4階 大会議室
出席委員	松前委員 中尾委員 三澤委員 工藤委員 奥山委員 大野委員 中館委員
事務局 出席者	中村部長 天野室長 東課長 西村主幹 太斉係長 森谷係長 佐々木主任 武田係長 渡辺主幹 細谷主査 木村主査
審議事項	第2次総合計画～主要施策の検討について
発言内容	<p>① 都市整備課</p> <p>◆資料No.4 <防災対策の充実></p> <p>○委員 ～国や北海道へ事業要望している河川はどこか？</p> <p>■事務局～国管理河川においては、天塩 川の未整備エリアの堤防造成を北海道管理河川においては、豊栄川や名寄朝日地区の新生川、智恵文地区の八幡左の沢川である。豊栄川については現在、徳田地区で護岸整備が行われている。平成28年度から3カ年の予定で17線から18線間の線路東のエリアで遊水地の造成が始まる。大雨時での災害未然防止につながる事業として期待している。河川の土砂浚渫や雑木処理等の維持事業についても要望を引き続き行っていく。</p> <p>◆資料No.5 <都市環境の整備></p> <p>○委員 ～都市環境の整備全般について、人口推計では30年後に2万3000人から2万5000人に回復するとの推計があるが、回復を見込んでいるか。</p> <p>■事務局～基本的には人口が減少していくことを想定しており、回復することを想定していない。</p> <p>○委員 ～美しい市街地については、ぜひカラス対策もやってもらいたい。</p> <p>■事務局～はい。</p>

○委員 ～都市計画制度の推進について、コンパクトシティプラスネットワーク化を検討していくとしているが実際には進んでいないのではないかと。

■事務局～2年程前に国と協力して名寄市の状況について分析をしたが、JR名寄駅前から浅江島地区などは既に一定程度、コンパクトシティ化されている、との分析であった。今後も、現在郊外に住んでいる人を中心部に移動してもらい、ということではなく、徐々に中心部に居住が集まっていくような計画としていきたい。

○委員 ～具体的に進めていくために、まちなかに公営住宅を整備してはどうか。

■事務局～現在のところ、街中に公営住宅整備の計画は無いが、今後もコンパクトシティ化に向けて考えていかなければならない。

○委員 ～街路灯と防犯灯の違いは？

■事務局～街路灯は、道路に単独で設置してあるもので、防犯灯は主に電柱に付いているものを防犯灯として位置付けています。

◆資料No.6 <道路の整備>

○委員 ～市街地の道路において、道路幅員の変化する路線について、狭い幅員の方を広くし、真っすぐとおった道路の整備はできないものか？

■事務局～現状ではそのように道路敷地幅の違いで道路の幅員が変化する路線はございます。しかし、市内には多くの防塵道路などの未改良道路が多くあり、その整備が優先となること、用地買収や家屋等の補償費に多額の費用を要することからも整備は難しい。

○委員 ～橋梁の修繕はどのようなことをするのか？

■事務局～大規模な修繕ではなく、部分的な修繕を行い少しでも延命を図ることを目的に事業を進めている。平成21年度から平成24年度に橋梁点検を終え平成25年度に修繕計画を策定し、平成27年度より修繕工事を始めている。修繕対象は26橋の予定である。今年度は中名寄の七線橋の修繕を行った。来年度は、南大橋の修繕を行う。橋台や橋脚のひび割れ補修や床版の補強等を行っていく。

◆資料No.7 <雪に強いまちづくりの推進～除排雪>

○委員 ～今年状況を見たら、1条と2条で車がすれ違えないくらい道路が狭い。また、西町の方でも道路が1車線しかなく、バックで戻ったことがあった。市民との協働を謳っているが、まず車線の確保をしてから市民に協力を得るようにしないと、市民が納得しないと思う。

■事務局～除排雪の助成として、市道私道助成事業がありそのような道路につきましては、半分の助成があることから、縁沿いの市民の協力によって進めていただきたいと思っております。

○委員 ～町内会で空き地を利用した方法などが考えられる。

■事務局～除排雪については、地域、議会など様々なご意見を頂いている。今後も引き続き検討していく。

②企画課

◆資料No.8 <道路の整備 高規格幹線道路の整備について>

○委員 ～用地買収についてどれぐらい進んでいるのか？

■事務局～用地買収は平成 28 年度から実施予定で、地権者と直接協議により進められることとなる。

◆資料No.9 <地域公共交通>

○委員 ～沿線での J R を活用した振興策はどのようなものが想定されているのか？

■事務局～現段階では具体的な振興策を持ち合わせていない。今後沿線自治体で構成される宗谷本線活性化推進協議会の中で振興策について協議していくことになる。先般ダイヤ改正がプレス発表されたが、J R と敵対するのではなく、J R と沿線自治体が一体となって地域の振興策について模索する必要がある、今後検討されることとなる。

○委員 ～地域振興策では、名寄～稚内間などで特産品や地域の食材を使用した食のイベントや車内で、それらのものが食べられ、交流人口が図られるような取組が必要。それがその地域、地域の良さが見え、交通の足の確保にもつながると考える。

■事務局～委員お話のとおり振興策については様々な取り組みが考えられるため、食の観光も含めたものを協議・検討してまいりたい。

○委員 ～コミュニティバスが運行されているが、一方向にまわっている、双方向にする考えはあるか？

■事務局～運行開始にあたって、イオン線が時計まわりのため、コミバスを逆回りとし重ならないように検討したところ。また、コミバスの路線としては、道路が狭い場所がありコミバス同士がすれ違えないことも懸念されるため両回していない。

○委員 ～デマンドバスは予約と聞いていたが、予約していない人が乗ることはできるか？

■事務局～予約がある時のみバスが地域を走る。また運行路線も固定されていないため、運行時間に合わせ待っていても予約がないとバスは運行しない。

○委員 ～予約している方が既にて、同乗したい場合などは？

■事務局～利用人数を把握して運行するので、予約時に2名と申し出ていただくことが、原則。運用上はできるかもしれないが・・・デマンドは、廃止バス路線の代替で、既存のバス路線と重ならない地区の方を対象としているため、利用される方によっても、条件が異なるため、個別の利用へのお答えは難しい。

◆資料No.10 <雪を活かし雪に親しむ生活・文化の推進>

■事務局～1次計画では除雪施策と同じ体系としていたが、利雪親雪の施策については「名寄の冬を楽しく暮らす条例」の理念に基づくものであり、市の施策全体に関わりがあると同時に、市民の皆さんとの協働により推進していく必要がある。また、市の施策実施や市民の方々々の生活、まちづくりなど様々な場面で利雪親雪の考え方により、雪や冬を楽しみ生かしていくことがテーマとなる。総合計画に搭載するうえでは個別施策としての位置付けを絞るのではなく、基本構想に記載しまちづくりの目標とし、計画全体で利雪親雪の考え方を意識していくことも考えられる。

○委員 ～ライスセンターを視察したが、雪を活用した施設の利用なども想定されるのか？

■事務局～お見込みのとおりです。

○委員 ～幅広く意識していくということであれば基本事業の中ではなく、基本構想の中で触れることで良いと思う。

■事務局～雪の活用や利用といった施策での観点では、幅広く分野が広がっており、計画全体に関わる基本構想に記載する方向で検討することとしてよろしいですか？

○全体意見～基本構想へ記載することに賛同する。

◆その他<全体意見>

○奥山委員～雪と宗谷本線をリンクさせた事業の展開を期待する。

○中尾副部長～風連の神田さんが作っている寒締めホウレンソウは冬の寒さで甘みが増す作物で、冬を逆手に取った取組は良いことである。冬を活かした取り組みは、全体にも好循環として、冬は良いのだと認識させることができる。

決定事項等

次回の部会開催について修正や、基本目標のたたき台などの準備が出来ましたら、連休前か連休明けに開催をしたい。日程については、調整させていただきます。